

DESENZANO 2024 FISU World University Championship Sailing 出場報告書

名城大学体育会ヨット部

コーチ 森由美子

イタリア・ガルダ湖で開催された「FISU 世界学生セーリング選手権」に日本代表として参加させていただきました。選手は男女各3名、合計6名と帯同者3名の9名。遠征は6/2に日本を出発。6/3に現地入りしました。



【出場選手】

スキッパー	玉田航大	(理工学部4年)
メイントリマー	東明千葉実	(理工学部3年)
ジブトリマー	稲垣颯生	(法学部4年)
ピットマン	壺田琴未	(農学部4年)
マストマン	横井誠也	(主将・農学部4年)
バウマン	内藤由希子	(副主将・農学部4年)

現地での練習は6/4、6/5の2日間と聞いていましたが、現地の準備が大幅に遅れており、6/4は湖上に出て練習することは出来ませんでした。しかし現地スタッフの方から、艇の仕様や特徴等、操船方法を教えていただき、午後はレスキューボートをレンタルして、風の振れや湖面のチェックをする事は出来ました。

【6月5日】

大会前日は公式練習日となり、各国2時間の練習時間をもらい、初めて『ドルフィン 81』に乗船しました。日本で練習していた『メルジェス 24』よりも大きなジェノアセールを張り、『メルジェス 24』よりもはるかに重量のある船体にヒールを入れてタックをするのは、慣れるまでに時間が必要でした。メンバー同士、どのような動作を誰がするのかを話し合っ
て徐々に上手く出来るようになっていきました。同じ時間帯に練習をしていたシンガポール
のチームと帆走してスピードや角度を確かめることも出来ました。



現地スタッフからレクチャーを受ける選手



シンガポール艇と帆走練習



夕方からのオープニングセレモニーは地元の街中を凱旋。各国の旗を掲げた選手たちが順に進んでいきます。関係者だけでなく、その場に居合わせた皆さんが手を振って声援を送ってくださいました。街を挙げての開催で、日本とは違う歓迎ムードの中、世界選手権にきた事をあらためて実感しました。

【6月6日】予選1日目

各国をA/B 8チームに分け、艇の乗り代わりを前提に1日4レース予定で開始。

日本はグループAでオーストラリア、イタリア1、カナダ2、クロアチア、ポーランド、中国、オランダという各国強豪との組み合わせとなりました。

初日は緊張の中、3レース行われました。

選手にとっては初めての世界選手権、緊張しないはずがありません。平常心でと口では言えても、緊張は実践の動きに出てしまいます。しかしながら、1レース目は上1から最高に良いスタートを切りました。1レグ目の途中まではトップを走っていましたが、トラブルで失速。風の振れにも対応できず、結局最終8位でフィニッシュ。そのまま2、3レース目は6-9位と引きずられるように、思うような成績が取れませんでした。

初めての世界選手権で周りの艇に圧倒されてしまい、自分たちがこれまでしてきた練習の成果を上手く発揮する事が出来ませんでした。レース後のミーティングでは、これまで練習してきた事は間違いじゃない、自信を持ってやるしかない、今日の結果は変えられないと臨時コーチからの熱い言葉に励まされ、これから最高のパフォーマンスをして、トップ勢にどう絡んでいくのか、選手それぞれが感じた事を話し合いました。

【6月7日】予選2日目

前日の反省を踏まえて臨んだ2日目。この日のチーム分けは、日本はグループA。イタリア1、イタリア2、カナダ2、カナダ1、シンガポール、中国、マレーシアという組み合わせとなりました。

この日は風が無くお昼過ぎまで風待ちとなりました。風待ちの間に各国の選手同士がコミュニケーションをとって時間を過ごし、15時半AP旗降下、16時出艇。16時半からレースが行われました。日本チームはスタートから責めたレース展開で、2レースを4-5位で終えました。しかし前日の成績が響き、予選は12位での通過が確定。ゴールドフリートには進めませんでした。



【6月8日】予選3日目/決勝1日目

予選Bグループの残りを消化し、予選順位が確定したところで、引き続きゴールドフリートが行われました。

さすがに世界のトップセーラーが競う各国の技術は素晴らしく、目を見張るものがありました。スタートは各艇が一斉にフルスピードでスタートラインを切っていきます。

上マーク回航では圧巻のパワーとスピード、私達が思いつきもしないようなリカバリー技術。見ているだけで全身がゾクゾクする程の感覚になりました。これが世界のレベルだと思ひ知らされましたが、逆にここまで上り詰めてみたい、どうやったらこの技術まで追いつけるのか、ということばかりを考えながら観戦していました。結局この日のシルバーフリートレースは行われず、日本チームは待機で終わりました。しかしながら他の 7 チームが陸上待機であったのに対し、日本チームだけ地元の方のご厚意でゴールドフリートを船上で観戦出来たことは翌日の試合に大きく影響しました。

【6月9日】決勝2日目__最終日

予備日があるものの、この日を最終日とするアナウンスがあり、選手にとっては泣いても笑ってもこの1日しかありません。

前日のゴールドフリートを観戦していた日本チームは良いイメージを持ったままレースに挑み、4-4-3-3位と健闘。1上マークをトップ回航するレースもありました。結果的には12位になりましたが、選手たちはこの4日間でみるみる成長し、世界のトップセーラーに負けない程のメンタルと、勝ちへのこだわりを学びました。

優勝はフランス。2-3-2-5(Cut)-2位と1位を一度もとらずとも、安定の走りで圧勝。本場ヨーロッパ勢に食い込んでいったのはシンガポール。アジアで唯一のゴールドフリート進出で見事3位入賞です。

学生には常日頃より、フィジカルの強さ、ヨットの知識が実践でどれほど必要なのか、レジャーとしての楽しさではなく、競技として勝つことの楽しさを知って欲しいと、話してきました。それを3月のマッチレースと今回の世界選手権で体験してもらえたことは、選手だけでなく他の部員にも影響し、部の雰囲気も変わってきました。中部水域の小さな枠の中で、なかなか勝つことが出来ずにくすぶっていた選手達が、この世界選手権を通して各国のトップセーラーと繋がれたこと。またいつかどこかで再戦しようと約束し、お互いの将来を語る姿をみて、胸が熱くなりました。ヨット競技は日本ではまだまだマイナー競技とされていますが、世界ではメジャー競技であることを再認識した大会となりました。

今回3位に入賞したシンガポールチームの Cai コーチから「日本チームの選手はとても優秀な子達です。是非また日本チームと対戦したいです。楽しみにしています。」とご連絡をいただきました。大変光栄なことです。これからはディンギーだけでなく、キールボートも積極的に取り入れて、まずはシンガポールとの親善試合が出来るよう挑戦していきたいと思います。



今回の世界選手権出場にあたり、日本セーリング連盟の皆様には、多くのご支援をいただきまして、誠にありがとうございました。このような素晴らしい機会をいただきました事、あらためて感謝申し上げます。

また、JYMA 日本ヨットマッチレース協会様、JSAF 外洋東海様、協賛企業様をはじめ、中部水域の皆様を支えられ、多くの方のご厚意により今回の挑戦が叶いました。これは決して私達だけでは成し得なかった事です。本当にありがとうございました。

この経験を今後の活動の糧に、全日本、世界選手権出場を目指し、益々邁進していく所存です。引き続き、名城大学体育会ヨット部をよろしくお願いいたします。



FISU
WORLD
UNIVERSITY
CHAMPIONSHIP
SAILING



PROVISIONAL RESULTS SUNDAY 9TH JUNE

POS.	NATION	1F		2F		3F		4F		5F		TOTAL
		Score	PP	Score	PP	Score	PP	Score	PP	Score	PP	
1	FRANCE	2	-	3	-	2		5		2		9
2	ITALY 2	6	-	2	-	4		6		1		13
3	SINGAPORE	3	-	7	-	1		3		6		13
4	CANADA 2	1	-	5	-	5		4		4		14
5	ITALY 1	4	-	4	-	6		2		5		15
6	POLAND	7		1	-	7		8		3		18
7	IRELAND	5	-	6	-	8		1		7		19
8	AUSTRALIA	8	-	8	-	3		7		8		26
9	GERMANY	1	-	2	-	4		2				9
10	CANADA 1	6	-	3	-	1		1				11
11	AUSTRIA	2	-	1	-	2		9				14
12	JAPAN	4	-	4	-	3		3				14
13	NEDERLAND	3	-	5	-	5		5	2			20
14	CROATIA	5	-	8	-	6		4				23
15	CHINA	7	-	6	-	7		9				29
16	MALAYSIA	8	-	7	-	8		9				32



Gold Fleet discard

Desenzano del Garda - Porto Maratona

desenzano2024.com